Title	支那民族運動の相貌
Sub Title	
Author	望月, 玉三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1941
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.35, No.8 (1941. 8) ,p.1025(93)- 1055(123)
JaLC DOI	10.14991/001.19410801-0093
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19410801-0093

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

的效果のない基本的準備的な仕事に属するが故に経営主腦者によつて理解せられることなく往々にして等閑視せられる傾がある。併しながら、これこそ問題の核心を衝き、然も效果の最も大なるものであり、厚生費用の最も合理的な使用を約束するものである。

以上要するに、科學的管理法は生産力擴充に對して、製造技術自體と同様に重要な管理技術を提供するものとして絶對に看過し得るものではないけれども、然も、其の合理的なる適用は、勞務者の生活實體の科學的調査と綜合科學的判斷を以つて、勞務者の生活上の合理性を確保することによつてのみ保證せられるに至ることを指摘したのである。——昭和十六年六月五日——

支那民族運動の相貌

望 月 玉 三

民族問題は現下の世界に於いて最大關心事である。何故ならば、歐洲に於いて、東亞に於いて、民族問題を中心に武力戦と建設とが行はれ、歴史の新方向を決定しつゝあるからである。此の民族問題は歐洲大戰後に於ける民族主義の尖鋭化に依つて提起されたのであるが、これを離れては今日世界に生起しつゝある緊要な政治經濟問題を理解し處理する事は出来ない。支那の民族問題が今次支那事變の根源的原因として考へられ、従つて東亞新秩序の基本的問題として各方面に於いて取上げられて居るのも其の爲である。併し乍ら、支那民族問題に對する見解は區々として居る爲に、民族問題處理策に於いて樂觀的解答、架空の獨斷論、悲觀的見解等が現出して居る。

支那の民族主義を因として、日支が未だ干戈の裡に相對峙して居る現實に於いて、民族問題の適切なる處理は緊要問題であると同時に難事中の難事である。併し、東亞今後の興隆の如何は一に東亞民族問題を正當に理解し、其の上に立てられた民族政策如何に懸つて居ると云ひ得る。其故に其の現實的障碍や困難の爲に理論と、政策を歪曲する事は許されない。問題解決の道を現實に求めず、架空の世界に求めて居る自慰的獨斷論、民族主義を超刺せず、未解決のまま殘置して居る樂觀論等は承認し得ない。支那事變は日滿提携の根底的要請として民族問題解決を提

示すると共に、それが實際問題として複雑困難なる事を教示して居る。而かも我々は其の打開の道を見出さなければならぬ。其の爲には支那民族主義そのものを正しく理解しなくてはならない。本論は其の運動の變遷と性格の究明を目的とするが、其の前提的出發點として民族及び民族主義の概念規定から始めよう。

民族の概念は、甚だ複雑混淆した曖昧なる概念であつて、今日洵に其の正體を把握し難いものとされて居る。此の概念の不明確性は、民族の不明確な自然所與的、生物學的部面と歴史的社會的部面とを混淆して、民族の概念を屢々使用して居る處に起因する。即ち、現實的には、民族の概念と類似した概念たる人種國民等との關係に於いて交錯混淆して用ひられて居るが故に、概念的混亂を生じて把握し難いものとなつて居る。人種は本來生物學的集團概念であつて、「自然的な體質的な統一」の概念（新明正道著「東亞協同體の理想」五一頁）と規定されて居るが、然し事實上純粹の人種なるものゝ存在は現今否定し得る。現在の人種は、過去に於ける混淆錯綜の結果、混血した「歴史的人種」であつて、生物學的な正確な人種は存在しないと云ひ得る。従つて人種概念は不明確であり感情的なものとなる。斯かる不明確な感情的な人種概念を、社會的時代的要請から民族概念の確實なる基礎として利用して居る事に依つて、民族の概念は不明確ならしめられて居る。次いで、民族の概念は國民との關係に於いて、更に概念の混亂に導かれる。國民なる概念は社會的概念であつて、「民族が國家と結びついた場合」（前掲書六二頁）に成立する、而して國民は國家と民族との結びつき如何に依つて、或る民族の一部、或は諸民族の合成から形成せられる。後者の場合諸民族の統一集團を一民族の形成と見、一國民も完全に一致せしめる。斯くして、民族の概念は國家形成との關係に於いて複雑化せられ不明瞭なものとなる。以上の如く、本來歴史的社會的概念である民族の概念

は、類似的概念の交錯使用と共に、自然所與的、生物學的部面と歴史的社會的部面との混淆に依つて、極めて曖昧不明瞭ものとなつて示現されて居る。従つて、民族概念に關する見解も各人各様に分れ、自然所與的、生物學的部面に其の本質を求めもの、歴史的社會的部面に重點を置くもの等が存する。

民族構成の要素は、客觀的要素と主觀的要素の二を必要とする。客觀的要素とは、封建社會崩壞後の歴史的段階に於ける社會的集團であり、主觀的要素とは其の客觀的要素の存在に伴ふ集團意識である。從來より民族に就いては其の自然所與的、生物學的部面に重點を置いて、血縁共同體、地縁共同體、言語共同體、運命共同體、文化共同體等の一に、或は二、三に其の本質を求め見解が存在する。併し乍ら、此の種の見解は、民族構成要素の一を以て、或はは隨伴的性質を以て、其の基本的本質とする不完全性を有する。

血縁關係は民族と無關係なものではないが、これを以て民族の基礎とする見解は、民族の人種的要素を偏重するものであり、且つ現實を説明し得ない。既述した如く、人種其のものが不明確な感情的な存在であつて見れば、斯かるものゝ上に其の基礎を置く事は何等概念を規定するものでなく、更に一民族の他人種包含と云ふ民族擴大の現象が現存する今日、血縁關係のみを以て民族の本質とはなし得ない。次いで、民族と地縁の關係を見れば、一地域内に居住する事が民族形成に必要な要素の一をなして居る事は明瞭であつて、國土に對する愛の如き、その證左であるが、併し民族は必ずしも地理的同一性を必要とせず、自然的條件を異にする地域に於いて一民族を構成し得るは歴史の示す所である。従つて民族構成の一條件ではあるが、必須條件ではない。更に言語に就いて見れば、社會構成員と言語とは、密接な關係を有するもので、これに依つて社會生活は一層促進され、緊密化されるものである。従つて民族構成の有力な基礎の一と考へられるが、現實は之を否定する。勿論此の傾向は認められるが、普遍的でな

5。即ち、スイスの如き代表的實例が雄辯に此の間の事情を物語つて居る。政治、文化、宗教の如きをもつ宿命、文化共同体を民族の本質に求め得るか。民族は自然所與的、宿命的と云ふ意味に於いて、宿命共同体であり、文化共同体であるとは云へ、民族のみがそれであるのではなく、他の總べての社會的集團も之等に屬する。されば、これは民族の本質の完全なる表現ではなく、其の一部面に過ぎない。

上述の如く、自然所與的、生物學的要因は民族構成の一因と成り得る場合は存しても、基礎的な本質とは成り得ない。即ち民族構成の根基に對する補助的役割を果すに過ぎないのである。然らば、民族の本質は何處に求むべきであるか。それは、民族の歴史的社會的部面である。「人間生活の根據は人間が生活し、その生活資料を生産獲得し、配給する組織としての基本社會に存するのであるが、民族は、その生活の方法、生活資料獲得の方法における社會的組織の一體制であり、基本社會發展の一段階に於ける基本社會編成の一體系である。それ故に、民族は一の史的生産共同体であるとする。(加田哲二教授著「人種、民族、戦争」七一頁 基本社會としての人間集團は、人間の生存に於ける共同宿命體であり、生産共同体であるから、従つて、民族も一の生産共同体である。而もそれは封建基本社會崩壊後の歴史的段階に於ける社會的集團である。(前掲書九四頁)。

以上論述して來た事は民族の客觀的要素である。此の客觀的要素は民族構成の基礎を形成するものではあるが、これのみを以て民族の本質を完全に別決し得たとは考へられない。民族の本質に更に必要不可欠な要素として、主觀的要素たる意識、感情の存在を上げねばならない。

主觀的要素としての民族の意識、感情は如何にして發生するか。それは客觀的要素の存在に伴ふ集合的意識の事實に基き、共同生活意識をその根底とするに至つて、民族形成の主觀的要素となるものである。抑々「基本社會は

生活資料獲得を基礎とする人間の包括的社會であつて、其の構成員は此の生活組織に依つて生命保持の資料を獲得するのであるが、斯かる社會的構成の基礎の上に於いて、一定領域に於ける習慣、傳統、言語が其の共通的特質とされる。茲に於いて、此の客觀的要素の存在に伴つて、社會構成員は社會構成員たるの共同意識を創り出すのである。(前掲書九三頁)斯かる共同意識が民族意識、民族感情の基礎となるものであるが、民族意識、民族感情は封建社會崩壊後の歴史的段階に於ける近代社會の共同意識を指稱する。基本社會に於ける共同意識を、歴史的現段階に於いて把握するとき、自己の社會構成員の特性又は他のものとの異質性、自己の同質性に對する意識、即ち自己の差異に關する意識を加味して居る。而して斯様な差異に關する意識は、社會構成體の自然的特性のみに限定されず、寧ろそれが有する文化的要素の共通、殊に歴史的、社會的に規定せられる共同體の觀念の上に成立するものである。従つて、それは自然的統一としての意識ではなく、歴史性を中心とする共通の過去と共通の意欲に依つて結合された社會的統一としての生産共同体たるの意識である。

斯様な社會集團の意識、感情の發達過程は、同類、異類の相對的觀念の發生に基く。一種族が他種族との接觸に依つて、種族的差異に關する意識、感情が發生する。此の事は、對外的には異類意識、感情として感得され、對内的には同類意識、感情として發現される。斯くして、同類、異類の意識感情は一社會内外の客觀的要素に依つて、民族意識、感情の昂揚まで押し進められるのである。民族意識が對外的に發揚されると同時に、對内的には同一種族の同一性に依る緊密化が起り、前時代に於ける意識及び他の集團意識と對抗し、之を克服して其の歴史的段階に於ける基本社會の唯一の原理として確立されるに至るのである。以上が民族の概念の主觀的要素である。

叙上の如く、民族の概念は主觀、客觀の兩要素を俟つて成立するものと考へる。客觀的要素のみを以ては充分に

民族の本質を表現し得るものではなく、それに加ふるに主觀的要素を以てするとき、初めて全きを得るものと言へよう。封建社會崩壞後の歴史的段階に於ける客觀的要素の存在に伴ふ共同生活意識を有する人間集團を民族と呼稱する事が出来よう。民族意識、民族感情の存在に依つて、地縁、血縁、政治、文化の如き固定的、自然的概念は、歴史的、社會的見地から認識把握されるに至り、一層民族概念が複雑強化されると共に、民族概念の本質を混沌とせしめ、把握を至難ならしめて居るのである。

二

叙上の如き概念を有する民族を中心とする民族主義は如何なるものであるか。民族主義は民族の現象に照應した運動及び思想であるから、民族構成に於ける客觀的要素及び主觀的要素が其の基礎前提になる事は明らかである。即ち、封建社會崩壞後に於ける「生活資料の資本制的生産」を其の物質的基礎とし、其の民族意識を精神的基礎として居るものである。(前掲書一一頁一一六頁)而して民族構成の基礎である客觀的要素と主觀的要素は相互作用に依つて、民族主義の推進昂揚を齎らすものである。併し乍ら一概に其等の要素は民族主義を促進するものとは斷定し得ない。何故ならば、或る場合には寧ろ制動的役割をなすからである。地域についても、言語についても、共に民族主義の運動を制動する場が存在する。狭小なる地域に對する愛着は、廣大な國土を中心として考へる民族主義を制約する。地方々々の方言の存在は、統一的運動としての民族主義を制動するものである。

斯様な民族主義は、近代民族國家成立と共に誕生したのであるが、其の近代的意義は廣義に解釋すれば、「一民族又は國家中心主義の思想及び運動である」。(前掲書一一頁)、それは文化的、社會的、政治的基礎として、自己民族の價值を自的に昂揚し、これを基礎として、一集團の諸政策、理想を顯現せんとするものである。而して、現

狀に於ける民族主義は先進國と後進國に於いて其の様相を異にして居り、従つて二つの意義を有する。先進國に於ける民族主義は、自國の獨立を保持主張するに止らず、自國の民族的又は領土的擴大發展を意欲するものであつて、積極的意義を有する。後進國に於ける民族主義は、一國の他國に對する獨立、若しくは諸種族の一民族への統一を目標とし、其れに對する障礙を排撃防衛せんとする消極的意義を有する。斯かる意義を有するに至つた過去の足跡を概見して、現在の民族主義の輪廓を彫出して見よう。

一、封建社會より近代社會への移行の爲には、新社會結成の指導的理論を必要とする。此の役割を果す爲に出現したのが民族主義の發端で、それは同一種族の分離狀態から結成狀態への移行、分散的權力の結成に依る集中的權力の構成を主張する新國家論として登場した。而して中央集權國家構成の主張は當然封建國家打倒の主張であり、且つ強力國家の主張でもあつて、其の爲に封建的束縛を打破する解放思想であつた。更に此の解放思想としての民族主義は、強力國家形成の爲の富國強兵策として重商主義政策を採用するに至つた。斯くして封建社會打倒に對しては解放的であつた民族主義も、富國強兵の點に於いては多くの國家主義的要素を持ち、統制強化の政策を行つたのである。此の民族主義政策の國家的統制束縛は、富國と共に勢力を獲得した個人に對して障害桎梏となり、國家主義的民族主義は自由主義的民族主義に變貌するに至つた。此の傾向は先進國英國に於いて顯著であり、殊に産業革命に依つて一層拍車されるに至つたのである。國內に於ける個人に對する制限干渉の撤廢が行はれ、更に國外にも延長されて自由貿易主義世界主義の出現を見たのである。自由貿易主義としての世界主義は、一見英國民族主義と背反する如くに見られるが、其の實、此の政策經濟的自由主義こそ英國にとつて最良の民族主義であつて、經濟上自由主義的、世界主義的であると云ふ事が其自身最も民族主義的でもあつたのである。此の種の民族主義は民族

國家形成の爲に發生し發展したのである。

二、此の先進國英國の自由主義的民族主義に對して、後進國に於ける民族主義は自國防衛の立場に於いて、保守的保護政策を採用するは必然であつた。而してそれは後進國の經濟社會の發達程度の差異に依つて、二種に分れる。一は資本主義産業の幼若状態にある後進國に於ける保護政策であつて、之れは自國資本主義的萌芽の育成保護を目的とし、近代的民族國家への移行を準備する所の進歩的なるものである。他は封建社會の場合で、先進國との接觸が其の社會を破壊する危険から、封建社會を擁護せんとする目的を以て防衛政策を採用する。此の防衛政策としては鎖國政策、攘夷運動が行はれるが、茲に外的刺戟に對する共同の利害防衛の衝動から、民族意識が發生する。斯くして前者は進歩的民族主義であり、後者は保守的民族主義と云へる。此等民族主義は封建的社會自體の問題で、民族國家と云ふ外的刺戟に依つて發生して來たものである。

三、自由資本主義が獨占資本主義又は金融資本主義の段階に到達して、國外的發展が最も重要性を持ち、更に有力なる競争者の存在に依つて一層強烈なものとなつた。茲に自由主義的民族主義は揚棄されて、積極的民族主義の登場を見るに至る。積極的民族主義に於いては、民族の發展と民族の再組織の問題があつて、一方に於いて一民族生存の爲に、植民地及び半植民地關係の設定と云ふ國外に對する積極的活動を行ひ、他方其の爲に國內の再編成を行ふのである。積極的民族主義の實際的活動が熾烈となつた第一次世界大戰後に於いて、植民地及び半植民地に於ける民族主義の勃興が顯著となつた。植民地及び半植民地に於ける民族主義は、此等の領域に於ける民族の形成、其の自治獨立を主張する。従つて、此の主張は其の領域に於ける封建社會の打破と植民地關係又は半植民地關係の解消を意味する。後者は先進國の帝國主義打破の運動として、土着資本と労働者農民とに依つて、異つた關係から

行はれる。茲に植民地及び半植民地民族主義の複雑性が認められる。

四、第一次歐洲大戰が齎らした國際情勢の著しい變化は、國家組織に對する巨大な變化——獨裁政治又はそれに近い政治——を與へて、民族主義も新局面を展開するに至つた。即ちファッシズムの出現で、積極的民族主義以上に積極的であり、自國民族の最高價値の徹底的宣揚を行ひ、且つ積極的民族主義を一定の組織に構成して、其の運動を行つて居る。而して自國內問題の解決を國際的秩序の現状打破にあると信じ、領土擴大政策として、イレデントの主張、大ドイツ主義を表明し、現在の國際秩序を以て優秀な自國民族發展の爲の桎梏であるとして、其の打開の爲には戦争をも辭さぬと云ふ決意の下に、その準備的組織としての積極的民族再編成がファッシズムなのである。(加田哲二教授著「政治、經濟、民族」一七頁—四五頁参照)

以上四段階に分けて近代民族主義の變遷を叙述した事に依つて、民族主義の變貌を知り得たと思ふ。現代の民族主義は、先進國に於いては積極的民族主義、及びファッシズムの形態を探り、後進國に於いては植民地及び半植民地民族主義となつて、民族問題の激烈化を招來して居る。

三

叙上の如く、近代民族國家成立以來、各種の相貌の下に力強く發展して來た民族主義は、近年に至つて其の逞しき性格を發揮し、世界の東西に於いて深刻な衝突を惹起したのである。其故に現今民族問題は吾人の最大關心事であつて、支那民族問題が新東亞指導理論の發生的基調として把握され、従つて支那民族問題の根幹を構成するイデオロギーとしての三民主義は、最重要な問題の一として検討の俎上にあげられて居るのである。現在の民族問題の眞の意義は、歴史的社會的解明に依つて眞に把握されるのである。其故に支那民族主義のイデオロギーたる三民主義の

今日の性格を正當に理解する爲には、一應それが育成された支那の社會經濟の實相を照應しつゝ考察する必要がある。三民主義は歴史的社會的產物であり、従つて客觀的情勢の變化發達に依つて其の内容を變更發展せしめて居る。

支那民族運動の黎明期の幕は、阿片戦争(一八三九—一八四二)を以て切つて落された。歐洲民族主義は自國資本主義の爲に支那の鎖國主義を軍事的征服に依つて打破したのである。歐洲資本主義の支那侵略は、阿片戦争前十六世紀初葉より葡萄牙を先驅に西班牙、和蘭に依つて行はれ、次いで英國が參加した。英國は阿片戦争以前、十七世紀初頭より英國東印度會社に依り、對支貿易を行つて居り、更に一六三五年より英本國と直接交渉を營んで來た。而る處、年々對支貿易額の増加は巨額の銀貨支拂を生み、之が對策として印度に栽培を奨勵した阿片を以て充當した。此の効果は直ちに上り、支那銀貨の流出を見るに至つて、支那は阿片中毒の害を理由として十九世紀初頭輸入禁止、吸飲販賣を禁止したのであるが、密輸入の増加する情勢に對して、遂に政府は強硬態度を採るに至つた。斯かる情勢下に起つた一殺人事件は、事あれかしと待ち構へて居た英國に好機を與へ、遂に阿片戦争を惹起し南京條約に依つて支那侵略と支那封建的農業體制崩壞の第一彈を加へたのである。此の事は支那によつて半植民地國家への出發點であり、民族運動發生の第一歩であつた。阿片戦争の結果に依る英國商品の流入は、支那舊來の家内工業手工業に破壊的影響を與へ、幼若工業の萌芽を抑止して、封建社會破局の深刻な局面を招來した。一八五〇年以後にも、前にも、世界の如何なる地においても支那におけるやうに商業が莫大な儲けをあたへるところはなかつたと述べられて居る如く、阿片戦争後の歐洲資本主義の對支侵略は著しいもので、支那産業の破局は日一日と深刻となると共に、當時起つた飢饉と洪水は一層此の傾向を拍車した。此の事態に對する清朝政府の無策、無統治は愈々

封建社會崩壞を強めたのである。斯かる社會經濟狀態を地盤として、支那民族運動の前驅的現象が廣東を中心に南支那各省に於いて頻發した。即ち、廣東人の反英運動を初め、無數の騷擾叛亂が農民を根幹とした中小小工業者の一團に依つて頻起せしめられた。併し乍ら、此の種の運動は政治的目標を有せず、支那の世界からの隔絶を意欲する復古的保守主義であり、盲目的、原始的な攘夷運動であつたのである。其故に自國社會の破壊作用としてのみ感ぜられる先進國との接觸に對して、自然發生的に爆發する民族的鬭争であつて、外的刺戟に對する共同の利害防衛の衝動から民族意識をもち、外夷排撃の防衛政策を採る保守的的民族主義の發生であると云へる。然し斯様な保守的的民族主義は到底先進國の有力なる武器をもつた民族主義には對抗し得るものではなく、血の反感に彩られた攘夷運動の如きも徒らに自國社會の崩壞を促進せしめる口實を先進國に與へたに過ぎなかつた。

斯様な社會經濟的諸事情を背景として一八五〇年洪秀全を首領とする農民大衆の太平天國の叛亂が起つた。此の叛亂は外國の侵略的資本主義の侵入に對する典型的な自然的反抗であり、其の當面の主要攻撃を清朝に向けて居つた。従つて一八五〇年廣西に叛旗を翻し、近傍に於ける幾多の叛亂者を吸収膨脹しつゝ太平天國と號し、中支地方に勢力を確立した。併し此の運動はその主體をなす農民軍にとつて眞の同盟者を缺いて居た。即ち、封建制を打破し民族の獨立を要求する眞の意味の有産階級が未だ存在して居らなかつたのみならず、其等は反つて農民運動を抑壓、鎮靜するに努めた。更に農民階級より有能な指導者を多く輩出せず、各種階級の指導者に依つて指揮せられた結果、指導陣營内に於ける紛争分裂を生じた。此の二因は、叛亂に依つて自國商業發展を阻害されて居る列強の干渉と相俟つて、太平天國の運動を壊滅せしめたが、要は此の運動を完成する爲には、支那社會が幼若未熟であつた事に歸せられる。併し太平天國の運動は、原始的な攘夷運動より一步前進して、組織的な運動であり、封建的組織の清朝

を打倒して、人民の自由と平和とを尊重した相扶相愛の國家を形成せんと企圖したもので、此の點後年の革命運動の前驅をなしたものと認むべきである。又此の運動の出発點である清朝打倒と歐洲資本主義侵略に對する反抗とは此の運動が民族主義運動たるの基礎をなして居る。何故ならば清朝打倒は一つには「倒滿興漢」の思想に基いて居る。漢族から見れば清朝を構成する支配階級は滿人であるから、歐洲人と同様夷狄であつて、此處に異民族支配から脱却せんとする民族主義運動の容貌を見出す事が出来るのである。更に清朝打倒には、封建社會打倒と云ふ意味も存在して居る。茲に於いて、明らかに此の太平天國の運動は民族主義の運動であつたと云へるのであるが、他方それは阿片戦争と共に支那の半植民地としての運命を決定して、今後の支那民族運動の地盤を形成したのである。斯くして、支那民族運動の黎明期は終幕した。

洪秀全の太平天國の運動が失敗に歸した後、清朝の社稷は一時安泰であるかのやうに見えたが、此の期間こそは封建社會終焉前の一時的小康時代で、國民革命の胎動期であつた。太平天國の運動は失敗したとは云へ、之れが支那に與へた影響結果は洵に大なるものである。太平天國の討征に際しては英米人の援助を得なければならなかつた。支那は、其後一層歐米勢力の増大を承認せざるを得なかつた。外國資本主義は支那に於ける自己の地位を着々強化し、陸上貿易にまで進出した。而して外國資本主義は漸く商品輸出から機械輸出の段階に達して、積極的民族主義の片鱗を示し始めたのであつた。支那自體に於いては、地主、豪紳、商人の勢力が清朝勢力の衰退に依つて著しく強化された。即ち叛亂に對する防衛から武裝を行ひ、更に地方に於いて無制限的な獨裁をなし、地方住民より巨額の金員を徴収する一方、外國資本の手先と成つて手数料を受取り民族資本を除々に形成しつゝあつた。他方清朝政權の衰退は官吏の墮落を招いた結果、官吏は外國資本の借款、投下を許可すると同時に手数料に依つて私腹を肥

し、更に鐵道事業の如きに關係する事に依つて官僚資本を蓄積しつゝあつた。斯の如く、清朝政權の統治の墮落、外國資本の進出、武裝せる地主、豪紳、軍閥の獨裁横行は支那農業を荒廢せしめ、封建社會の壞滅作用を促進せしめると共に、農民を主體とする無數の騷擾、叛亂を頻起せしめた。殊に日清戦争後に於いては、拳匪の運動として大規模な叛亂が相踵いで起つた。此の運動は自然發生的反抗であり、保守的民族主義であつて、清朝擁護及び外國人撲滅のスローガンを採用した。併し此の運動は一九〇〇年北京の義和團事件を惹起して衰退したが、外國資本主義の侵略に對抗する鬭争の一層の發展へ、國民革命へと架橋したものである。

斯様な社會情勢を反映して、政治の改革、制度の更新が唱へられ始めた。康有爲の「變法維新」の論、譚嗣同の「仁學」の説の如きである。康有爲は根本的に支那を改造しなければ、大清帝國を救助し得ないとして、變法自強を提言すると共に、民權の伸張を力説した。而して實際政策としては飽迄も立憲的改革を取るべき事を主張し、光緒帝の起用する處となつたが、保守派勢力の壓迫、戊戌の政變を惹起して改新は消滅した。譚嗣同も新思想と政策を以て清朝政府に改革を主張したが容れられなかつた。此等兩者は共に熱心な改革論者であつて、當時の清朝政府の手に依つて改革を行はしめようと考へたのであるが、之に反して、彼等と前後して清朝政府に對する根本的不信任を表し、支那民衆の福利を増進する爲、革命的手段に訴へて起つたものに孫逸仙があつたのである。

四

孫文の三民主義を理念とする支那民族運動の出発は、政治運動として行はれた。此の政治運動は、前述の如く、外國資本主義の侵略に伴ふ支那農業社會の破局、外的刺戟による民族意識の覺醒、清朝打倒に依る政治改革、制度更新の主張運動の輩出、更に日露戦争に依る刺戟の中に醸成されて行つたのである。孫逸仙の革命運動への第一歩

はハワイ・ホノルルに於いて興中會を組織したのに始まる。此の興中會は成立當時、滿洲王朝の秕政を打倒し、富國強兵をもつて、中國を振興すると云ふやうな漠然たる綱領を持つて居るに過ぎなかつた。(加田哲二教授著「東亞協同體論」一八六頁)のであるが、日清戦争後、三合社との提携に依る計畫失敗に依つて、「打倒清朝の旗色は鮮明にせられ、孫文等の革命思想の形成のために役立つたのであつた。(前掲書同頁)一九〇〇年三合會、哥老會と聯合して計畫の失敗後、日本に於いて一九〇五年華興會と結合して中國革命同盟會を組織し、機關紙「民報」を發行して革命思想の普及に努めた。孫逸仙は此の民報に於いて民族、民權、民生の三民主義を行ふ事の肝要を主張して居る。

中國革命同盟會は其後實踐的行動に移つたが、悉く失敗に終つた。併し一九一一年鐵道國有問題は果然革命の導火線となつた。鐵道を國有とし、これを擔保としての外國借款に依つて清朝財政難の救済を目的とする此の問題は、當時日露戦争に刺戟され、民族資本の萌芽的發展に依つて、所謂利權回收運動が盛んに行はれて居た際であつたので、反對の風潮は各所より猛然と沸き起つた。此の情勢を利用して中國革命同盟會は働きかけ、宗教仁の活躍に依つて十月十日辛亥革命——第一革命は簡單に成功し、共和政體なる中華民國臨時政府が成立したのである。時局拾収に對して無力なる清朝政府は袁世凱の出慮を懇請した。袁世凱は一度南方革命軍を攻撃して實力を示して後、清朝政府の無力を見抜いての南方革命派との妥協工作は、實力の排除を自認して居る南方革命派に於いて應ぜられ、清國朝廷の退位、共和政體の採用、革命黨員に對する寛大措置等を條件に和平は成立した。茲に於いて民國元年二月十二日清帝は退位し、孫逸仙に代つて袁自ら臨時大統領の地位に就任して支那共和政府は誕生したのである。

一應の勝利を得た中國同盟會は、同年八月統一共和黨、國民共進黨、國民公黨、共和實進會等の参加を得て、國民黨結成へと發展的解消をなした。斯くて國民黨「政府公認の政黨として發足するに至り、現實的改良主義を基調

とせる政綱を表明した。(一)政治の統一を促成す、(二)地方自治を發展す、(三)種族の同化を實行す、(四)民生政策に注意す(五)國際の和平を維持すの五條である。此處に注意すべき點は、第三、第四、第五の三項である。第三項は從來の清朝打倒の主張を變へ、民族の統一に重點を置いて居る。第四項の民主政策に注意すと云ふ漠然たる主張に中國革命同盟會の政綱が變へられて居る事で、國民黨の組織分子の變化に基くものであらう。第五項は中國同盟會の政綱には見られぬもので、國際協調に依つて自國の自由と獨立を企圖した爲である。斯様に發展した國民黨に對して、出慮當時より天下掌握の野心を有して居た袁は衝突せざるを得なく、宗教仁の刺殺を初め、國民黨壓迫の擧いで民國二年第二革命が惹起された。實力の相異の結果は袁の勝利に歸し、國民黨解散を命ずると共に彼は事實上の皇帝となつた。斯くして、袁世凱の彈壓に遇つた國民黨員は孫文を中心に再び秘密結社「中華革命黨」を組織し、三民主義を主義とした結果組織分子は制約され、亡命者は分裂状態に置かれた。一九一六年(民國五年)袁世凱の共和制廢止と立憲君主制の公布は、反袁派を馳つて第三革命を勃發せしめた。結果は袁の帝政取消となり、袁の死去後北洋軍閥は北京政府を擁立し、地方に於いては各々地方軍閥が支配する群雄割據の時代を出現せしめた。以上述べた如く、辛亥革命は支那歴史に會て見ざる政治革命を齎らしたとは云へ、第一革命の目標たる憲法も共和制も悉く結實せず、單に絶對主義政權である清朝を打倒して倒滿興漢の目的を達したに留まつた。民族運動そのものの主體的條件が充分に培養されて居らず、爲に封建軍閥の勢力を打倒するに至らなかつたのである。

叙上は第一次歐洲大戰時代に至る迄の支那民族運動の概観であるが、此の變遷に於ける孫文派革命運動の核心をなす三民主義は如何なる内容意義を有つて居たであらうか。孫文の革命運動の發足である「興中會時代には三民主義のうち民族主義のみが生れて居たのである」。(周佛海著、犬養健譯「三民主義解説」上卷三二頁)彼は富國強兵を以

て外敵に對抗し自國民族生存を確保せんとの見解から、腐敗墮落した清朝政府の打倒を先決問題と考へ、「倒滿興漢」を強調した。其故に民族主義そのものとしては甚だ素朴單純なものであつた。其後、亡命中の海外視察から、民族主義に民権、民生の兩主義を加へた三民主義が形式的に完成し、中國革命同盟會の宣言となつて表はれた。同會の規定は(一)韃虜の驅除、(二)中華の恢復、(三)民國の建立、(四)地權の平均の四箇條である。第一及び第二は民族主義の主張であり、清朝打倒の表明である。此の點は興中會時代と相違はない。第三は民権主義の主張であり、第四は民生主義の主張である。従つて、第三及び第四は國民革命の主張であつて、前時代には主唱されなかつたものである。民権主義の最初の内容である民國の建立とは、歐米的の民主政治の建設の意味であつて、當時は單に歐米の模倣に過ぎなかつた。民生主義の最初の内容たる地權の平均は土地問題解決として土地所有權の民衆化より社會化を意味する。此れは社會問題の豫防衛生として主張された。斯くして形式的には三民主義はその形態を備へたが、内容に於いては完成されたものではなかつた。殊に民族主義が當時主要な意義を有して居り、且つ支那社會が民権、民生の内容を豊富にすべく成熟して居らなかつたからである。其故に中國革命同盟會時代に於いても、清朝打倒が主要眼目であつて、歐米資本主義の支那に對する政治上、經濟上の壓迫、侵略に對して、多くの顧慮が拂はれてないのは、其の屈辱を認めて居らなかつたわけではないが、後進國支那の生存確保の爲に先づ清朝を打倒しなければならぬと考へたに他ならぬ。此の點第一革命後の國民黨の綱領第五項に表はれて居る。斯の如く、素朴な内容をもつた三民主義が此の期迄に完成したのである。

辛亥革命後、民族主義は、五族共和を稱へて漢、滿、蒙、回、藏の人民を擧げて共に平等の政を行ふと云ふ内容を有するに至つた。即ち、滿族を排して漢族の解放を求める倒滿興漢の思想より、進んで國內各種族の解放獨立を

主張するものへと發展した。民権主義に於いては未だ充分な検討はなされず、單に歐米的の代議制的民主共和制を布き、人民に制限選舉權を與へる主張に過ぎなかつた。民生主義に於いては、辛亥革命前後に於ける支那自體の資本主義も漸次發生發展して、除々に確立された情勢を反映して、資産階級と勞働階級の對立なる近代的社會問題の對策として、從來の「地權の平均」に「資本の節制」を附加した。斯様に充實を見た民生主義は現存社會の維持と共に、現存社會に發生する弊害に救済と改良を加へんとする社會政策であつた。以上述べた如き三民主義は、固定的なものでないから、爾後の社會經濟發展に伴つて内容を變化せしめて行つたのである。

五

・歐米資本主義の壓迫侵入の進行と其れに結付いた地主、豪紳、商人の勢力増大とは支那封建社會を混亂と破滅に導いたが、他方新しき支那の誕生を準備しつゝあつたのである。外國資本の流入は舊き支那を漸次新しき支那と化し、同時に買辦資本、官僚資本をも次第に培養育成し支那經濟の近代化を齎らしつゝあつた。辛亥革命後、殊に歐洲大戰中に於ける歐米資本の進出が緩められた好條件に恵まれ、支那民族資本は異常な發展を遂げた。當時尙、革命に次ぐ革命、地方軍閥の混戦と云ふ情勢下に支那經濟は急速に資本主義的生産へと基礎的轉換飛躍を遂行した。歐米資本主義の侵攻は、支那社會を經濟的に破壊すると共に、文化的思想的にも更新を齎らし、支那民心を覺醒せしめた。即ち、經濟的方面の躍進的發展が招來された支那は、文化的方面に於いても顯著な變革を行つて、向後の民族運動の爲に有力なる素地を形成しつゝあつた。從來孫文派の努力の下に展開されて來た民族運動と辛亥革命後袁世凱を中心とした北洋軍閥の國民黨彈壓に依つて民國五年迄は何等著しい變化が齎らされなかつた。併し乍ら同年末、西歐文化に依つて覺醒しつゝあつた北京大學文學部の活躍は民族運動の有力な推進力となつた文學革命、

思想革命を斷行したのである。文學革命は胡適に依つて展開された支那古來の傳統的文學に對する挑戦とも云ふべきもので、白話文學の主張及び運動であつた。胡適が文學革命を主張する理論的根據は個性の尊重と同時に時代の獨自性の主張にある。(橋樑著「支那思想研究」四三三頁参照)即ち自我の覺醒であつた。此の主張及び運動は全國の有識者中に急速に擴大されたのであるが、之れは從來支那有識者の中に外的接觸に依つて潜在的に生じつゝあつた自我及び時代に對する意識が胡適の主唱を契機に前面へと押し出て來たのである。此の文學革命と前後して陳獨秀の唱導に依る思想革命が起き、支那の傳統的教義たる儒教を破壊する主張及び運動が行はれた。此の儒教こそは支那思想界に於いて君臨し、一切の精神科學を支配して居たと云つても過言でない程一切の文化を代表して居つたが陳獨秀は之に對して「自己の要求」と「時代の進化性」とを以て否定的極論を主張した。勿論陳獨秀の論は總べて正當とは云ひ難いが、儒教の從來有して居た過當な權威を洗ひ落とすと共に、文學革命のそれと同じく自我に醒め、自我を要求し且つ進んで自我の責任に於いて社會に働きかけることを要求した。

此の文學革命及び思想革命の根基は畢竟「自我の覺醒」であつて、此の意義は頗る大なるものがあつた。文學革命の白話文學の主張は、一面に於いて學問の普及化を促進すると共に、他面に於いて傳統的思想の抹殺を誘導した。思想革命の儒教否定は、封建思想を排撃して自己の要求と共に時代の新道徳法律を主張し、従つて封建的階級制度を撤廢せんと意圖した。斯かる支那の傳統的文化に對する全面的挑戦は、保守主義者のみならず、封建的支配階級に對して一大脅威を與へた。

斯様な支那社會自體の物心兩面に於ける發育に對して、一層刺戟的役割を果したのは、歐洲大戰時に於いて強調されたデモクラシー思潮と民族自決主義であり、更に一九一七年のロシア革命とであつた。歐洲大戰に於いて、デ

モクラシーが世界的思潮として喧傳されると共に、米國大統領ウィルソンは民族自決主義を主張し、世界に巨大な影響を與へたが、半植民地支那もそれに洩れなかつた。又ロシア革命の支那への影響は更に大なるものがあつた。即ち前述の如く自我に覺醒した支那青年の受入れる處となつた。

斯かる地盤に於ける支那民族運動は如何であつたのであるか。其の烽火は民國八年(一九一九年)北京に起つた曹汝霖邸燒打事件であり、それを契機として約一箇年に互る運動が起された。此れが五四運動である。五四運動の特徵は、前期迄の民族運動に比して著しく青年學生の勢力が増大し、彼等が中心勢力となつた點である。此等は五四運動の道を開いた文學革命及び思想革命の所謂舊禮破壞運動の直接的結果に他ならない。而して舊禮破壞運動の如きは個人主義思想を背景として行はれたのであるが、五四運動は單純な個人主義的衝動ではなく、民族的國家的感情を根源として居る。巴里平和會議の決定に對する不滿から、北京の學生數千が日支軍事協定及びヴェルサイユ條約絶對反對を標榜し、親日派政客曹汝霖等を襲撃し其の邸を燒拂ふの擧に出た。更に總同盟休校を行ひ且つ商人を説得して對日ボイコットを斷行した。更に一年後に於いて山東問題に關して北京政府に對して同様な方法で強硬な態度を採り成功した。此の運動が即ち五四運動であるが、此の結果として支那の青年學生は民族運動に於ける有能な先驅者となり得る自信を有ち、又對外的にも支那の地位向上を彼等の手に依つて實現得る自信を得た。而して、五四運動の直接的原因をなした巴里會議及び國際聯盟の態度は、他面從來支那自國の繁榮への援助を託して居た歐米列強に對する過度の信頼を控るべき事を支那人に教へたのであり、支那民族運動に於ける反資本主義、反帝國主義への道を開いたのである。

歐洲大戰前後に於ける支那の工業及び貿易の發展は、前述の如く民族資本の培養増大であると同時に、労働者の

増加を意味する。此の支那經濟の資本主義的生産に依つて増加した労働者は、他のものと同様に、民族自決主義思潮並びにロシア革命の影響を受けて、政治的關心を高め、民族運動への積極的協力の傾向を示して來た。此の事は支那の民族的統一運動の基礎的條件の充實を意味するものであつた。支那労働者の生長した推進力は外國資本と衝突し、一九二一年香港に於ける海員組合労働者ストライキ、一九二二年山海關及び唐山の諸工場の労働者に依るもの、一九二三年京漢線労働者に依るもの等を起したが、常に國內軍閥と外國資本主義との結合勢力に依つて彈壓された。併し此の彈壓は支那労働大衆を反軍閥反帝國主義運動と一層押し進める結果となつた。

抑々、孫文一派の革命運動の連續的失敗の因は、一に客體的條件、主體的條件の不成熟不整備にあつた。然るに歐洲大戰前後に於ける支那の物心兩面の育成發達は、此等二條件を彼等に與へた。即ち、彼等運動の經濟的基礎は、勃興増大を見た支那土着資本の援助に依つて強固にせしめられた。増加せる労働者、青年の自我の覺醒に依つて地盤は形成せられた。斯くて客體的條件は備へられると共にその事は主體的條件を強化促進せしめた。孫文一派は中華革命黨の不振とロシア革命の刺戟とに依つて、民國九年(一九二〇年)中國々民黨を結成したが、民國十一年陳炯明の叛亂に依つて再び亡命しなければならなかつた。斯くして孫文の過去に於ける諸經驗は彼をして舊軍閥官僚勢力及び外國資本主義勢力の根強さと兩者の相互の利益が密接に入り組んで居る關係とを理解せしめた。随つて、民族運動は反帝國主義と反軍閥の上に其礎を置く必要を感じたのである。勿論、巴里會議に於ける列國の態度は孫文に對して強く影響した事も事實であつて、彼の運動を實現する爲には國民大衆の力を借りる必要を認めるに至つた。而して彼は運動の行詰りの打開策をロシア革命の方法の採用に見出し、其後中國共產黨との提携へと進んだ。ソヴィエト・ロシアは一九一九年七月以來カラハンの名に於いて支那との友好關係を求め、支那の自由獲得の爲

に援助の申出をなしたが、北京政府は英米列強の制肘を受けて交渉を躊躇延引した。其後の支那は前述の如く軍閥と歐米帝國主義とに依つて混亂が反覆され暗澹たる状態であつた。従つて、此等の提案に依つて、ロシアの信望は支那青年層の間に植え付られ、中國労働組合書記部が成立し、一九二〇年には中國共產黨の結成を見たのである。當時の共產黨のスローガンは、(一)帝國主義及び軍閥反對、(二)國民會議召集と國民政府の建設、(三)不平等條約の撤廢、(四)國民革命の完成、(五)反革命分子の攪亂反對の五項であるが、要は反帝國主義と國民革命であつた。數度の革命失敗の經驗から反軍閥、反歐米帝國主義の必要を痛感した孫文が、一九二三年ロシアの代表ヨッフエとの共同宣言を成立せしめたのも此の間の事情を物語るものである。斯くて孫文の過去の諸經驗と時代的要請とに依る思想的轉向は、國民黨と中國共產黨との提携を可能ならしめ、民國十三年(一九二四年)一月國民黨第一次全國代表大會に於いて兩者の提携が承認された。孫文の思想的轉向は國共合作の實現に依つて具體的に示されたが、此の思想の變化、即ち三民主義の内容の變化は、一九二三年六月の「中國國民黨部」に於ける演説に於いて一部分現はれて居た。

「一個完全な漢民族の國家を造成せずして、半獨立國に墮して居ることは、我等漢民族の最大の恥辱である。本黨の民族主義は未だ徹底的に成功してゐない。本黨は民族主義に更に工夫を加へねばならぬ。即ち蒙古、回教、西藏等を我等漢民族に同化せしめ、大民族主義國家を建つべきである。」(堀江昌一述「三民主義論」アジア問題講座、政治軍事篇(一)一八一頁参照)

と述べ、積極的な見解を提唱し、民族自決の思想を汲んで居る。一九二四年の黨大會に於ける宣言の中には、明瞭に孫文の思想の轉換が現はれて居る。民族主義に就いては、第一に外國に對しての支那民族自求解放であるとして

次の如く述べて居る。

「國內の軍閥と帝國主義とは相結び、而して資産階級も亦耽々としてそのおコボレの分配に預からんとしてゐる。國民黨員は繼續努力して支那民族の解放を求めなければならない。その恃む所の後楯は多數の民衆であり、知識階級、農民、労働者、商人である。けれど民族主義なるものは如何なる階級に對しても普遍的に帝國主義侵略より免れ得る鍵である。苟も民族主義なければ、その實業界に在つても列強の經濟的壓迫に對して自國生産を永久發展するの可能なく、又労働界に於ても帝國主義に依附して生存してゐる軍閥と國內外の資本家とのため痛く其等の生命を蝕ばまれる。故に民族解放の闘争は多數の民衆に對して、その目標を反帝國主義に置く。……吾人が民族主義を實證し、健全なる反帝國主義たらんと欲すれば、國內に於ける各種平民階級の組織に努力し、以て國民の能力を發揚すべきである。蓋し惟ふに國民黨と民衆とが緊密に結合する時に於てこそ、始めて支那民族の眞正の自由と獨立とが光を見るからである。」(前掲書、一八二頁)

これに依つて三民主義の内容變化を充分に知る事が出来る。從來の武力、金力を持つて居つた民族運動は、過去に於ける貴重な經驗から支那民衆に其の據所を求め、従つて反軍閥、反帝國主義へと目標を轉換して行つたのである。此の反軍閥、反帝國主義の運動は、一は土着資本の外國資本に對する本質的對立の運動として、他は労働者、農民大衆の資産階級に對する運動として、兩側より支持されたのである。次いで孫文は民族主義の中に支那國內に包括されたる諸種族の一律平等の意義を認め、今後國民黨は諸民族と組織的聯結を形成し、國內專制の殘物たる軍閥及び帝國主義に支那各民族の自決權を以て勝利を獲得して各民族自由聯合の中華民國を組織すると説いて居る。此の點に於いても、反軍閥、反帝國主義の戰線を多數の民衆に依つて形成し、且つ其の基底を民族自決權に置き、

自由平等を強調して居る。即ち、民族自決の思想を入れ、大亞細亞主義を主張すると共に、更に弱小民族、被壓迫民族の解放を求め、大同世界の完成を提唱するに至つた。

民権主義、民生主義に就いても、其の時代的客觀的要請から、其の現代的意義を強調し、現狀に即應した説明を與へて居る。民権主義に於いては、之を享受する者を眞正に帝國主義に反對する人及び團體に限定して居る點にその現代的意義が認められる。

「國民黨が主張する民権主義は、一般民衆の共有物である。少數者の得て私する所ではない。茲に於て強調しなければならぬことは、國民黨の民権主義が所謂「天賦人權」と異なつたものである、といふことである。それは唯現在の支那革命の必要より生れ出たものである。けれど支那共和國の國民のみが享受するものであつて、支那共和國に反對する者に授けて支那共和國破壊の用に供せしめてはならぬ。だから繰り返して言ふ。即ち凡そ眞正に帝國主義に反對する人及び團體は均しく一切の自由及び權利を享有するけれども、凡そ帝國國民以て忠を帝國主義及び軍閥に效す者は、其團體或は個人に論なく、悉く自由及び權利を享有するを得ない。」(前掲書一八三頁)

辛亥革命當時に於いては、未だ「民國の建立」のみを民権主義の内容とし、只單に歐米の民主政治の建設を目指して居たが、其後の客觀的要請から、選舉權の他、罷免權、創制權及び複決權の三權を加へて、「間接民権の主張から直接民権の主張」へと發展した事は、注目すべきである。(周佛海著「三民主義解説」上卷五〇頁)

民生主義に於いては、從來と同様其の地権平均及び資本節制を重要視するが、労働者農民の支那民族運動及び革命に於いて占むる役割の重要性を認め、労働者及び農民に對する考慮を多分に拂つて居る點に時代的な意義を見出し得る。即ち農民及び労働者に對する民生主義適用の具體的方法を特に説明し、兩者の民族運動に於ける力を重要

視して居る。其故に、労働者及び農民の爲にする國民黨の奮闘を殊更に強調して居る點も興味深いものである。

支那は北より南まで、通商都市より僻陬の田舎まで、到るところに於て、困窮せる農民と悲惨なる労働者との姿が見出せる。彼等のをるところの地位と感ずるところの痛苦とは皆同じで、その解放を要求する至情も亦切なるものがある。故に帝國主義に反抗する意識も極めて強い。國民革命の運動は必ず全國の農民と労働者との参加によりて、始めて勝利を獲得し得るであらう。國民黨は一方に於て此の農民と労働者の運動に對して全力を以てその展開に盡し、その經濟組織を補助し、日に發達に趨かしめ、以て國民革命運動の實力を増進することを期待する。又一方に於て、農民及び労働者に對して、國民黨に参加して相與に不斷の努力を爲し、以て國民革命運動の進行を促さんことを要求する。けれど國民黨は今帝國主義及び軍閥——同時にこれは労働者農民に不利なる特殊階級だ——に反抗し、以て農民及び労働者の解放を謀ることに従事して居る。これは正しく労働者及び農民のために奮闘してゐるのであるから、労働者及び農民が國民黨に入黨することは、それ自身直に労働者農民自身のために奮闘することなのである。(武田熙編「支那革命と孫文主義」前掲書一八五頁)

支那民族運動及び革命に於ける彼等労働者及び農民の役割の重要性を認識すると共に其の爲に國民黨の彼等に對する特殊の顧慮が拂はれて居る事は、此れに依つて明示されて居る如くであつて、此の傾向は其後の演説に於いて一層明確となつて居る。而して民主主義の窮極の目的は資本主義の打倒にある事を明示して居る。其故に「地權の平均」と「資本の節制」は民主主義の手段となり、其の目的ではなくなつたのである。(周佛海著「三民主義解説」上巻五二頁)

以上詳論した如く、歐洲大戰後、孫文の腦裡に宿つた此の運動の質的轉換は、一九二四年一月の大會に於いて明

確に表明されたのである。清朝覆滅を其の第一の出發點とした孫文一派の支那民族運動は、此時から反帝國主義、反軍閥を目標に増大せる土着資本と向上せる支那一般民衆の上に其の根柢を置き、其の力を彼等の力に求めるに至つたのである。斯くして、民衆の知的向上土着資本の増大の如き客觀的條件と國共合作に依る多數民衆の信望獲得とは、民族運動の發展前進を豫約した。

六

支那民族運動の質的轉換は國共合作に依つて着々實踐に移され、労働運動、農民運動、婦人運動、青年運動及び商民運動等の各種民衆運動の培養育成がなされ、労働者大衆の組織が急激に發達を見た。其の結果の一として、民國一三年末(一九二四年)以來急激に各地にストライキが頻發し、鬭争が激化した。此の反軍閥、反帝國主義のストライキに依つて、國民黨は諸種の會黨を包含し得て大同團結を形式的には作り上げた。歐洲資本主義の侵略に依つて封建の長夢を覺醒せしめられた支那社會は、封建的分子、近代分子的の對立混淆した坩堝であつた。従つて、其の社會を胎盤として出生した幾多の會黨は、各々異つた目的を有つて居た事は當然であるが、此等諸種の會黨が、舊軍閥打倒、歐米資本主義の侵略排撃の點に共同の要求を見出す事に依つて、國民黨に大同團結した。而して孫文の卓越した人格と手腕に依つて各派の對立混淆の弱點は隱蔽されて居たのである。斯くして、國民黨は外面的には從來になかつた程の經濟的、人的の充實がなされ、支那再建の爲の國民革命は正に實現され得る態勢を備へたのであつた。併し乍ら、民國十四年三月十二日(一九二五年)北京に於いての孫文の客死は、國民黨の此の弱點を暴露せしめ、黨内の内訌分裂が惹起され、國民革命に一大頓挫を招來することとなつた。即ち孫文の客死は、三民主義に對する解釋に意見の相異を生ぜしめ、内訌分裂を招來したのである。

孫文の容死後直ちに國民黨の内紛が中山艦事件として現はれた。更に民國十六年(一九二七年)北伐遂行を契機として、軍政家の間に於ける相剋、軍政家と理論派との對立が表面化して、國民黨の内訌は複雑なものとなつた。而して民國十七年の第二次北伐敢行が蔣に依つてなされ、多大の成功を収めた結果、蔣介石政權確立となつて新國民政府は誕生して、一應國民黨内の内訌は清算されたのである。

此の國民黨内に於いて激しい理論鬭争と武力鬭争とが惹起され、黨そのものが四分五裂した原因は何であるか。孫文の容死、其れに依る偽裝的大同團結としての國民黨の正體暴露、北伐斷行を契機とする軍政家、理論家の複雑なる對立等は其の直接的誘因として求められるが、根本的眞因は三民主義そのものに内在して居るのである。孫文に依つて主唱された三民主義が内包する理論は、現實に何を意味すべきものであるか。現實に如何に具現されるべきか。三民主義を原理とする國民革命は、反軍閥、反帝國主義を目標として居る事は、屢述の如くであるが、舊軍閥の打倒が完成し歐米資本主義の排撃に火が點ぜられた時、自國資産階級を如何に取扱ふべきか問題とならざるを得ない。支那社會は資本主義的大生産様式を確立して居らず農業及び中小商工業に基礎を置いて居る。従つて本來の意味に於ける富豪は存在して居らぬ。支那社會の基礎をなす農商工に於ける中小資産家を資産階級として排撃すべきか否かが俄然問題を提起して、共產黨と國民黨殊に中央派の對立と成つた。又三民主義と現實との關係に於ける解釋の相違が分裂を發展せしめた。即ち支那建設の爲には如何にすべきかと云ふ點に就いて、列強に劣らぬ經濟體制の確立を第一とする中央派と孫文の理論通りに軍政期より訓政期へと進むべきであるとする一派と衝突した。以上要するに、三民主義の破壊面に於いては黨内の各會黨は共通の要求を見出したのであるが、建設面に於いては決して一致することは出来なかつたのである。

蔣介石政權の南京政府は其後銳意國內建設に努力した。其の間民衆に對する多少の犠牲は余儀なきものとして無視し、外國資本殊に英米資本と結合して國內經濟振興に努めると共に國內統一の實現にも力をそゝいたのであつた。他方彼は五四運動以來混亂を重ねて來た支那思想界に對して爆撃的衝動を與へ、支那民族の覺醒に對して新方向を指示した。即ち、民國二十三年(一九三四年)に主唱した新生活運動である。此の運動は、支那民族の弱點たる汚穢、浪漫、懶惰、頹唐を矯正する爲に、一般國民の衣食住を改良し、これを整齊、清潔、簡單、撲素ならしめ、禮儀廉耻の生活を實現せねばならぬと説くのである。此の運動の効果は現實的に大いに上り、従つて民族復興に對して精神上的の効果をも齎らした。新生活運動は、從來の諸運動が改新を全體に置いたに反して、個體の改善に主眼を置き、個體の改善に依つて全體の改良向上の効果をも期せんとした點に特徴がある。併し乍ら、此等蔣の方針は反帝國主義を放棄したものではなかつた。彼等は依然外國勢力の排斥を企圖し、反帝國主義であつて、遠交近攻政策を採り、以夷制夷の政策を以て、銳意國內建設に邁進すると共に反帝國主義の目的を完成せんとして居るのである。一方共產黨に對しては數度に互る討伐を敢行し、對立を續けた。民國二十五年(一九三六年)西安事件に依つて、共產黨と蔣との抗日戰線結成の提携が成立して以來、從來の日本排斥を強化して、對日戰備に狂奔し、蘆溝橋事件の發生と共に支那事變は展開されて今日に至つて居るのである。

七

現在の民族主義運動には、先進國に於けるものと後進國に於けるものとの二形態がある事は、前述の如くであるが、自國の自由と獨立とを熱望する支那民族運動は、後進國に於ける民族運動である。此の事は既に詳論した支那民族運動の展開に依つて容易に認められる。後進國に於ける民族主義の特質は、一國家の他國家に對する獨立、又

は諸種族を一民族へと統一して民族的國家を形成すると云ふ消極的意義に存する。従つて其の運動面に現はれる現象は、一に其の障壁である封建的舊體制の打破であり、二に此の舊體制を支持して自國經濟の發展維持を企圖する外國資本主義排撃である。此の種の民族主義は現代植民地及び半植民地國に於いて現はれて居るが、支那民族主義も正に此の種に屬する。而して此の運動は、一方自國に於ける資本主義の發展を意欲する民族資本の反舊體制、反外國資本主義の運動として、他方資本主義體制を排撃せんとする労働者農民の反帝國主義の運動として、現はれる。従つて、植民地及び半植民地に於ける民族主義は、此の二つの傾向に依つて代表せられるが、それは屢々混合、協同して行はれるが故に複雑化した様相を呈するのが常態である。茲に此の種の民族主義の理解に於いて困難な點があり、單に民族獨立運動としてではなく、相反する立場からの反帝國主義闘争をもつ民族獨立の運動であると解さねばならない。支那に於ける民族運動も此の觀點より眺めるとき、初めて眞の理解に到達し得るのである。孫文の死後、國民黨の偽裝的大同團結が脆くも崩壊して四分五裂の状態を呈したのは、此の運動の複雑性を如實に物語るものである。支那の民族運動の歴史は失敗の連続であつた。それは舊機構を打倒するに充分な經濟的基礎をもたなかつたと同時に、支那の現實に適應した原理の下に革新諸分子の整理を行はなかつた事に根源する。民族運動の指導原理としての三民主義は此の點缺くる所があつて、孫文死後其の現實に於ける解釋に各派各人意見の對立を招來した。

本來、三民主義は科學的に若くは哲學的に整理たる系統をもつたものではない。従つて三民主義の根本理念を何處へ求めるかに就いても物其の解明に於いても各様に分れて居る。或るものは「あらゆる平等の要求」に、他のものは「民主主義」に、或は「民族主義」に其の基本理念を求めて居る。(中保與作述「大亞細亞主義の基礎理念東亞問題研究

(二二三七頁)孫文が三民主義を主唱した基底には支那民族の自由と獨立への要求が存在する。而して歴史的產物である三民主義は當然世界的思潮の影響を受けて、其の時々の方向が規定されて行つたのである。其故に、孫文の時々の主張思想は總べて三民主義に歸納し得ると云はれるにも拘らず、三民主義の解釋に就いては意見の相異を見たのである。従つて、三民主義理論の破壊面に於いて、共同一致を見出した革新各派も、その建設面に於いては各派各人の設計案を有して居た。蔣介石一派は三民主義に則して支那を再建するには、列強諸國に劣らぬ經濟體制の確立が必要であると解して、銳意之に努めた結果、英米との提携に依る日本排撃となつて現はれた。此れが中國共產黨の全面的抗日策と軌を一にするに到つて、今次事變の發生的の基礎が準備されたのである。

支那の民族運動を顧るとき、其處に三民主義の變遷の跡を見る。支那は阿片戰爭に依つて、封建の長夢より覺醒し、民族運動の氣運を培養醸成した。支那の民族運動は保守的民族主義を出發點として、其の當初自然發生的な外夷排撃運動が行はれたが、應て太平天國の叛亂は「倒滿興漢」の運動に先鞭をつけて、後進國に於ける民族主義の態度を備へた。而して此の時代に於けるそれは、現代後進國民族主義の外國資本主義排撃の運動の傾向は見られず、寧ろ外國の援助に依つて自國の自由と獨立を獲得せんと意圖する進歩的民族主義であつた。併し乍ら其後の歐米資本主義の惡辣たる侵攻は、支那を半植地化し、従つて民族運動も封建的舊機構の打倒と共にそれを支持し且つ侵略壓迫を逞しくする歐米資本主義排撃へと漸次その目標を轉換せざるを得なかつた。孫文一派の民族運動は政治運動として「倒滿興漢」を第一目標に出發し、外國との提携に依つて民族の解放、自國の發展を計らんとしたが、其の運動の主體的條件、客體的條件共に整備されて居らなかつた。主體的條件の不備は主として經濟的基礎の缺陷であり、客體的條件のそれは、當時の支那社會の未成熟と云ふ事であつた。従つて運動は常に失敗を繰り返した。歐洲大戰

前後の世界情勢は支那社會に多大の影響結果を招來し、従つて民族運動にも新局面が展開される客觀的情勢となつた。文學革命、思想革命を通じての青年學生の自我覺醒、五四運動の成功に依る民族運動の昂揚、大戰に依る支那經濟の發展、従つて支那民族資本の増大と労働者階級部の増加、世界思潮たる民主主義とロシア革命に依る影響等は、支那民族運動に經濟的基礎と人的基礎を與へて、封建的軍閥の打倒と歐米資本主義侵略に對する排撃の統一戰線を結成せしめた。茲に於いて半植民地國家に於ける現代的民族主義の風貌は形造られたのである。此の支那民族運動の變遷を通觀するとき、支那民族の自由と獨立の獲得と云ふ一貫した主張が其の根柢に流れて居り、此の民族の自由と獨立に對する要求が歴史的段階に於いて各様の姿態を以て表現されて居る事を知る。

今次支那事變勃發の重要原因の一として見られて居る民族主義は、東亞共榮圈の建設に當つて、正に熟考せらるべき問題である。従來、支那民族主義のイデオロギーである三民主義は、其の方向を時代的客觀的要請に依つて轉換して、更生しなければならぬ。支那事變は吾人に東亞の歴史の進行方向を明確に示して居る。日滿支三國は其自身の自由と獨立の爲に互助連環、相互扶助の必然的方向へと進行しつつあるのである。歴史の産物である三民主義は、斯かる歴史の理性を感得し、其の歴史的社會的要請に應へ得べき方向に修正を行ひ、更生しなければならぬ。

此の三民主義の更生の姿は、本年六月汪精衛氏の來訪中に於ける記者團との會見席上に於いて發表されて居る。即ち、近衛聲明の實行運動としての東亞聯盟運動の基調として、民族主義を解して居る。民族主義は帝國主義よりの解放といふことを目的として唱へられたものである。この目的のものに支那日本と聯合し一緒になつて解放の目的に向つて邁進するといふことが大亞細亞主義になるのである。さういふわけで東亞聯盟運動は民族主義と大亞細亞

主義とを基調として出發して居るのである。(朝日新聞昭一六、六、二二、夕刊)

三民主義は新しい確實な基礎の上に立つて再出發せんとして居る。更生した三民主義は東亞共榮圈建設の理論の

一翼として、その進むべき道を與へられたのであつて、東亞共榮圈の前途の爲に祝福すべき事である。